



伊那市議会12月定例会では24議案と請願・陳情3件、委員会提出議案1件、議員提出議案1件が提案され審議を行いました。今定例会に上程された議案と請願・陳情を紹介します。

全会一致で可決した議案など

(一般案件)

- ◆**財産(建物)の譲与**(西町公民館の西町区への譲与について可決しました。)
- ◆**公の施設の指定管理者の指定期間変更**(3種別、3施設の指定期間の変更を可決しました。)
- ◆**公の施設の指定管理者の指定**(13種別、21施設の指定管理者の指定について可決しました。)
- ◆**市道路線の認定、廃止及び変更 2案件**(4本の市道路線の認定、廃止及び変更を可決しました。)
- ◆**財産(土地)の処分**(伊那インター工業団地産業用地の一部の企業への売却について可決しました。)

(条例案件)

- ◆**個人情報保護法施行条例**(個人情報の保護に関する法律の施行に関し必要な条例として可決しました。)
- ◆**個人情報保護審査会条例**(個人情報保護審査会の設置をする条例を可決しました。)
- ◆**職員の分限に関する条例等の一部改正**(職員の定年引上げなどを行う改正を可決しました。)
- ◆**職員の旅費等に関する条例の一部改正**(1km当たりの車賃の増額改定について可決しました。)
- ◆**積立基金条例の一部改正**(ごみ処理施設整備基金の名称などの改正について可決しました。)
- ◆**保養センター条例の一部改正**(羽広荘の廃止について可決しました。)
- ◆**産学官連携拠点施設条例**(産学官連携拠点施設を設置する条例を可決しました。)
- ◆**高遠しんの丘ローズガーデン遊園施設条例**(電動乗用カートの設置等を定める条例を可決しました。)
- ◆**高遠城址公園使用料徴収条例の一部改正**(駐車場使用料の改定について可決しました。)
- ◆**一般職の職員の給与に関する条例及び一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正**(一般職の職員等の給料月額等の改定について可決しました。)
- ◆**特別職の職員の給与等に関する条例の一部改正**(特別職の職員等の期末手当の額の改定について可決しました。)

(令和4年度補正予算案件)

- ◆**一般会計 2案件、特別会計4会計、企業会計1会計**(燃料等の高騰の影響を受ける施設園芸農家、生活困窮世帯、貨物運送事業者を支援し、新型コロナの感染対策などを行う補正予算(計6会計、7案件)を可決しました。)

(請願・陳情)

- ◆**安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める陳情書**(医療・介護の従事者の増、処遇改善などの実現を求める意見書の提出についての陳情を採択しました。)
- ◆**請願・陳情者の団体名、氏名公開についての陳情**(請願・陳情を提出した団体や個人の名称の公開を求める陳情を一部採択しました。)
- ◆**肥料高騰対策実施に関する陳情**(政府の肥料高騰対策への上乘せ補助を求める陳情を採択しました。)

(委員会提出議案)

- ◆**議会の個人情報の保護に関する条例**
(個人情報保護法制の変更に伴い、議会における個人情報の取扱いを定める条例を可決しました。)

(議員提出議案)

- ◆**安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める意見書の提出**(可決)

12月伊那市議会定例会

一般質問から

令和4年12月伊那市議会定例会の一般質問は、12月6日、7日、8日の3日間にわたって行われ、19人の議員が質問に立ちました。質問と答弁の主な内容をお知らせします。

高橋 姿



福祉・教育の課題解決はデジタルで

問 高橋 姿議員 デジタルを活用した市民参画は。

答 市長 原則、対面を重視していくが、政策や計画策定におけるDXツールは、市民ニーズを踏まえ検討したい。

問 高橋 姿議員 多目的な見守りのためのデジタル防犯カメラに対する取組は。

答 市長 今後、費用対効果や目的など、研究を進めていきたい。

問 高橋 姿議員 介護福祉の送迎をAIで集約し、効率

化するサービスの導入は。

答 市長 実用化には課題もあるため、導入事例を検証し、可能性を研究したい。

問 高橋 姿議員 高校の合併などによる既存の路線バスのAI化と路線の見直しは。

答 市長 ぐるっとタクシー、既存のバス路線、既存のタクシーなどで対応したい。

問 高橋 姿議員 不登校の調査は学校側の回答によるもの。子どもへの直接調査と対応を。

答 教育長 子どもや家庭に寄り添う支援に努めている。引き続き、生の声に応える支援を考えていく。

問 高橋 姿議員 子どもが匿名で悩みを相談できるアプリの活用と検討を。

答 教育長 長野県にアプリでの窓口がある。市独自でのアプリの導入は考えていない。

問 高橋 姿議員 子どものLGBTQについての相談に対する研修は。

答 教育長 教職員を対象とした研修会を行っている。高橋 姿議員 不登校児童がオンラインで授業を受け

問 た場合、出席の認定は可能か。

答 教育長 規定に基づき、令和3年度は11人の生徒を出席扱いとしている。

問 高橋 姿議員 伊那市のデジタル教育改革は。

答 市長 デジタル技術の人材育成は必要だが、南信工科短大に情報系の学科はない。中高一貫校の設置の議論が必要と思っている。



伊那市の教育活動について

問 小林 眞由美議員 人口及び生徒数減少が加速する中、将来を見据えての小中学校の貫いた教育活動に対する考えは。

答 教育長 小中学校の教育の質が低下しないよう、音楽、外国語の専科教員が学校間で相互

乗入れを行い、高い教育内容を保っている。幼保・小・中の連携を大事にし、地域の豊かな教育資源を活かした教育とICT活用で子ども一人ひとりの可能性を伸ばしていきたい。

伊那市の適応指導教室について

問 小林 眞由美議員 学校復帰を目指す不登校児童生徒への支援の現況は。

答 教育長 学校に登校できない児童生徒のために適応指導員を配する中間教室「やまびこ学級」を設け、子どもたちが安心して過ごせる場所、それぞれの子どもに適した自立・学習の支援を行っている。

多様なニーズに応えるため、中間教室の分室である寺子屋4か所の夜間の開設、今年9月には、食農体験型中間教室「日寺子屋伊宝館」の開設を行った。「伊宝館」では通常学習のほか、畑仕事や調理で自然との触れ合い、人との交流で社会的自立につながる学びを大事にしている。学校や子ども相談室、スクールソーシャルワーカーが本人や保護者に教室を紹介し、10月末までに60人程が施設を見学している。また、中間教室と在籍校との情報共有を来年度の重点項目に据

えて取り組んでいく。

湯澤 武



不登校対策居場所づくり支援について

問 湯澤 武議員 タブレットを活用した生活アンケートの実施は。

答 市長 広く子どもたちの声を聴けるよう、活用を検討したい。

問 湯澤 武議員 居場所づくりに「労働者協同組合法人」の活用は。

答 市長 市民の意欲と課題をマッチさせる良い取組。制度を周知していく。

防災訓練と要支援者の支援の充実を

問 湯澤 武議員 避難訓練に要支援者の支援の位置づけを。

答 市長 訓練に位置づけ、地域と協力して支援を強化していく。

二十歳のつどいの開催方法について

湯澤武議員 市で一同に開催しては。

答 **教育次長** 18歳へのアンケート調査を行い、検討を重ねる。

障がい者の投票支援について

湯澤武議員 「ヘルプカード」の作成へ障がい者との協議の場を。

答 **市長** 県作成のカードを活用し、協議の場は継続していく。



唐澤千明



人口減少に歯止めをかけることについて

唐澤千明議員 ①結婚祝金の支給や、出産祝金の上乗せを希望するが考えを。

②伊那市において移住者に限って家賃等の補助をしているが、40歳未満の新婚世帯全てに、市内全域で一定期間家賃等の補助をすることについて考えを。

答 **市長** ①出産祝金は、今後市議会で同意を得たら、来年4月1日から市内全域を対象に、第1子3万円、第2子5万円、第3子7万円、第4子以降10万円を支給する。②「結婚新生活応援事業」を実施。結婚に伴う新生活の立上げに必要な家賃、引越し費用、住宅必要費用、リフォーム費用など、結婚子育ての支援体制を充実させる。金額は夫婦ともに29歳以下の場合が上限60万円、39歳以下の場合が同30万円で調整している。

地域資源を活用した観光とサービス産業の振興について

唐澤千明議員 ①将来伊那市長谷側から塩見岳への登山ができるよう願うが考えを。

②羽広荘が年内で営業を終えるが、今後の宿泊業界への市の関わり方や考えは。

答 **市長** ①通行の安全が確保できず一般車両の通行制限がされているが、林道改修で一定の方向が見えれば復活させたい。

②宿泊は、民間の力に任せる。農家民泊に力を入れ支援していく。

唐木拓



伊那市の花「さくら」について

唐木拓議員 桜は伊那市の様々な場所に植えられており、季節になると各所で楽しめる。さらに増えれば、伊那市全体が桜の名所となる。出産祝いの選択肢に追加し、新たに家を建てる方に贈呈するのはどうか。

答 **市長** 桜は、手入れも大変で将来的には大木になり管理も大変になる。記念樹としては他の植物を個人的に植えられるのが良いかと思われる。

市営住宅の設備について

唐木拓議員 ①若宮団地で建設が始まる若者・子育て向け住宅の入居対象者の考えを。②移住者が民間の賃貸住宅ではなく、若者・子育て向け住宅を選んでいたく優位性の考えは。

答 **市長** ①中堅所得者層をターゲットとし、夫婦または小学生以下の子どもがいる世帯を対象に考えており、市に定住することを前提としている。②若宮団地は、伊那バイパス沿線にある好立地の条件で、若者世代から高齢者世代までが安心して住んでいただけの住環境エリアとなっている。

答 **唐木拓議員** 市営住宅の入居時の保証人が必須であり、入居の障壁になっている。県では県営住宅での不要を検討しているが市ではどうか。

答 **市長** 社会情勢に応じた保証人制度の在り方も含めて、県の状況や他市の動向を見ながら今後検証していく。

柳川広美



ごみの減量・資源化について

柳川広美議員 ①家庭から出る可燃ごみが増加。ごみ減量の対策は。②プラスチック廃棄物の分別資源化を。プラを使わない取組も推進を。

答 **市長** ①今年度10月までは増加。原因を追究し、紙類や食品ロスなど削減したい。②8市町村で取組年度を決める。紙ストロー、経木、ヘチマたわしなど推進している。

野底下橋の架替えについて

柳川広美議員 橋の欄干に車がぶつかる事故が何度も起きている。交通安全対策に橋の架替えを。

答 **建設部長** 直近2年で2回前の事故を把握している。前後の道路より橋の幅が狭いことが考えられる。幹線道路の開通による交通体系の状況を見て、架替えの時期を検討する。

医療・介護の負担増について

柳川広美議員 政府による介護保険制度の改悪についてどう考えるか。制度改悪で介護が受けられなくなる人が増えると思うがどうか。

答 **市長** 介護保険の保険給付費は年々増加しており、制度の見直しは必要。制度改定で介護サービスの低下や介護が受けられなくなる方が出ないよう、国の改正内容を注視し、市の協議会で慎重に議論を行い、施策に反映していきたい。



しのぶか
篠塚 みどり



高校生の送迎負担軽減へ

問 篠塚みどり議員 高校生の送迎負担対策は。

答 市長 ぐるっとタクシーは、高齢者、障害者、運転免許証返納者を対象にしており、現状のままの対応とする。

いきいき健康券の拡充について

問 篠塚みどり議員 金額の上乗せ、用途拡充は。

答 市長 令和5年度から各種福祉サービス券と統合し、使いやすい見直しを行う予定。

妊娠・子育て家庭への「伴走型相談支援」と経済的支援の一体的実施 「出産子育て応援給付金」の実施要望について

問 篠塚みどり議員 伴走型相談支援、経済的支援の一体的実施「出産子育て応援給付金」の実施は。

答 市長 今年度中に「交付金」を活用し、新たな経済的支援を一体的に実施する準備をしている。

がん患者医療用ウィッグ、アピアランスケア用品補助への進捗状況について

問 篠塚みどり議員 補助に対する進捗状況は。

答 市長 令和5年度から実施する。

よしだ ひろゆき
吉田 浩之



DX先進地伊那市の取組について

問 吉田浩之議員 モバイルクリニックの利用者は、週2日、1.5人平均と少ないが、普及のための取組は。

答 市長 患者が特定されるためであり、少ないわけではない。医師会、薬剤師会と利用拡大の研究をしている。

問 吉田浩之議員 モバイルクリニックの予定台数と整備、維持管理費は。

と整備、維持管理費は。

答 市長 当面1台だが、医療機関が増えれば複数台の整備も考えたい。車両整備は2000万円、維持管理は1200万円であり、有利な財源を活用している。

問 吉田浩之議員 モバイル市役所の稼働日数を増やすための取組は。

答 市長 市民に知られていない機能の周知や市役所各課とのオンライン相談に取り組み。

問 吉田浩之議員 マイナンバーカードの交付率を上げるための取組は。

答 市長 全庁職員での時間外受付、市内企業などへのチラシの配布、高校生への呼びかけ、出張申請などに取り組み。

伊那市の広報広聴について

問 吉田浩之議員 「市長」と語りた伊那」の回数減の要因とその対策は。

答 市長 これまで要望を聞き、政策を実行してきた結果でもあると考える。コロナの状況を見て語りた伊那も再開したい。

たかはし めいせい
高橋 明星



「子育て支援の考え方」について

問 高橋明星議員 高校卒業までの期間で学習費の負担が一番大きいのは中学生の保護者となっている。給食費の無償化については、保育園の次は小学校と、支援の手を下げ上げていくという考え方もあるが、義務教育の最高学年である中学3年生から下ろしてくることで公平性を確保することができ、また、本当に苦しい世代の支援につながると考える。

答 市長 中学3年生の給食費無償化は今まで考えていなかったが、そうした見方もある。このとおりやるかどうかは検討しなければならぬが、国の動きも注視しながら研究していきたい。

「教育の選択肢」について

問 高橋明星議員 上伊那地域には中高一貫校が1校もなく、中学に上がるタイミングでの教育の選択肢がない。中高一貫校の誘致または設立

をどう考えるか。

答 市長 子どもたちの選択肢を増やしていくことも大事だと思う。地域に必要なものは必要だという動きをしていくべき。私としても中高一貫校を是非誘致したいという考えである。

問 三澤俊明 三澤俊明議員 伊那市と箕輪町との境界付近を流れる瀬沢川は、下流で箕輪地籍になり、天竜川合流点で南箕輪地籍となるが、氾濫時に出水被害を被るのは伊那市側の福島地区である。伊那市は、この稀なケースに今後どう対処していくのか。



瀬沢川下流氾濫時の福島地区への出水を想定した幾つかの質問

問 三澤俊明議員 伊那市と箕輪町との境界付近を流れる瀬沢川は、下流で箕輪地籍になり、天竜川合流点で南箕輪地籍となるが、氾濫時に出水被害を被るのは伊那市側の福島地区である。伊那市は、この稀なケースに今後どう対処していくのか。

答 市長 伊那市では、当該場所と認識しており、適切な災害対応が取れる体制作りが必要な地域と考える。市町村境の災害については、河川管理者、道

をどう考えるか。

路管理者と連絡を取り、関係する市町村と情報共有する仕組みができています。

水神橋、明神橋の保全について

問 三澤俊明議員 環状北線開通後も歴史的建造物としてのRCローゼ桁橋である「水神橋」を歩道などとして残したかどうか。

答 市長 歩道にしても、安全管理が必要になる。環状北線の橋梁が完成したら撤去する。

今こそ「昆虫食発祥の地、伊那市」と名乗ってみては

問 三澤俊明議員 「昆虫食発祥の地、伊那市」と名乗ってみては。

答 市長 「昆虫食の聖地、伊那」として世界にアピールすることは良いと思う。



**家庭用太陽光発電システム
の設置補助金とLED電球の
購入補助金の導入に関わって**

問 野口輝雄議員 補助金の導入により、今後太陽光発電システムの導入が増えることが予想される。そこで、今社会問題になりつつある本システムの撤去費用について、市として補助金を出すことができないか。

答 市長 環境省でも、太陽光発電装置についてはできない限り再利用を進めている。FIT制度の認定を受けた物は撤去費用を確保することが義務付けられているが、それ以外の物の撤去費用補助については市単独で実施するのは困難である。国策として取り組むべき課題であり、補助制度の創設を国に要望する。

問 野口輝雄議員 テニスコートの全面張替えと仕切りネットの設置を要望する。

答 市長 サンビレッジテニスコートについては、傷みが激しいので来年度に助成金などを活用して全面改修を検討したい。ほりでいドームについては、お互いに譲り合って使って欲しい。

**サンビレッジテニスコートの
全面張替えについてとほり
でいドームの仕切りネット
の設置についての提案**

問 二瓶裕史 補助金の発行は、三峰川流域の住民にとって、河川内樹木や流木の処理の期待が大きい。これまでゴミであったものが燃料となるのは素晴らしいが具体的な構想は。

答 市長 やっかいものとして処理してきた流木を有効活用できる。解体で出た材や剪定枝などもチップ化して活用し、令和6年に木質バイオマス発電設備を導入したい。

友好都市との今後について

問 二瓶裕史議員 フィンランド北カルヤラ県と友好都市締結はできないか。林業、環境、教育分野で伊那市にメリットがあるのでは。

答 市長 お互いに友好都市の締結が良いという話になれば、締結も考えられる。まず交流を深める。



二瓶裕史

友好都市との今後について

問 二瓶裕史議員 フィンランド北カルヤラ県と友好都市締結はできないか。林業、環境、教育分野で伊那市にメリットがあるのでは。

答 市長 お互いに友好都市の締結が良いという話になれば、締結も考えられる。まず交流を深める。

楽器寄附制度の創設について

問 二瓶裕史議員 楽器をやりたいが様々な事情で諦めてしまふ、学校所有の楽器があるが状態が良くなく、修理の予算もないなど課題が多い。寄附によって楽器を集めることはできないか。

答 市長 市のシェアリングエコノミーサービス「こころむすび」を活用した楽器寄附に取り組んでいきたい。

**流木を燃料とした発電
について**

問 二瓶裕史議員 「流木を燃料に発電へ」という市長

の発言は、三峰川流域の住民にとって、河川内樹木や流木の処理の期待が大きい。これまでゴミであったものが燃料となるのは素晴らしいが具体的な構想は。

答 市長 やっかいものとして処理してきた流木を有効活用できる。解体で出た材や剪定枝などもチップ化して活用し、令和6年に木質バイオマス発電設備を導入したい。



宮原英幸

**捕獲二ホンジカのジビエ
活用について**

問 宮原英幸議員 ジビエ推進に官民共同で取り組み、処理能力を高める施策が必要ではないか。

答 市長 有害鳥獣対策として今後も積極的にシカ捕獲に努める。捕獲奨励金は、令和5年度から(市内食肉加工施設搬入体に対し)シカ一頭9000円(現行7500円)とする予定である。来年、高遠に民間による新規施設計画がある。迅速に処理するには、ジビエカーの活用やドローン運搬

も可能性がある。今後も地域内でのジビエの需要拡大や動物福祉の啓発などが必要である。

**気象情報収集に関わる
気象機器の増設について**

問 宮原英幸議員 避難指し示の判断はどのようにしているか。また、棚沢川、新山川、室川などの流域、長谷地域は観測拠点が粗い。国県との情報連携に加え、市独自の気象機器拡充設置が必要ではないか。

答 市長 拠点河川水位、危険度分布など、また、気象情報による累積雨量などを参照し、判断伝達マニュアルにより対応している。大規模災害は、長野地方気象台、天上事務所、県ホットラインなども活用し、総合的に判断する。リスクの高まり方は地域で異なることから、市独自の拡充は検討したい。



伊藤のり子

防災について

問 伊藤のり子議員 指定避難所が危険区域になっている場合の受入側の体制は充分か。

答 市長 広域的に対応する。分散避難も考慮する。普段から確認しておくことが大事。

問 伊藤のり子議員 「支えあいマップ」の作成はできているか。

答 市長 危機管理課と社会福祉協議会が積極的に関与して進めている。

危機管理監 202地区中44地区が未作成である。

問 伊藤のり子議員 河川内の整備に予算を増やしてもらいたい。

答 市長 関係機関は測量、巡視など行って把握し、優先度の高い順に実施している。国土強靱化対策事業でこれまで以上に大きな対策をしている。県に關しては、期成同盟会を通してその都度要望している。

「高遠町地区学校プール集約化の結果」について

問 伊藤のり子議員 おおむね好評だったと思うが、今後、集約化導入の考えはあるか。

答 教育次長 建設から年数が経っているプールもあるのですが、近隣する学校の共同利用を含めて検討する。

「伊那市中学生キャリアフェス2022」について

問 伊藤のり子議員 参加した子どもたちの感想は。

答 教育長 「多くの企業を知ることができた。」また、「私もこんな人になりたいと考えるきっかけになった。」などの感想が寄せられた。

飯島 光豊



小中学校給食費無償化の意義と効果、財源について

問 飯島光豊議員 ①子育て世帯は給料も上がらず、物価が上がり、支払いは大変。学校給食費などの保護者負担額は

いくらか。②学校給食費は「自治体が全額補助することを否定しない」との国会答弁や通達、例規集があるが。③給食費無償化の自治体もある。市の学校給食費は予算の0.9%で3億円余。145億円の市の基金など活用して学校給食費無償化実現を。

答 市長 ③無償化に取り組む自治体があることは承

知している。慎重な検討が必要。教育長 ②給食費は保護者負担が基本だが、自治体が補助できることは認識している。

教育次長 ①学校徴収金は1人当たり年額、小学生7万8372円、中学生9万2293円。学習費は、入学から卒業までに小学生26万448円、中学生27万2202円。

伊那市の農業を守る飼料、肥料等の直接支援について

問 飯島光豊議員 ①飼料、肥料、燃油、資材などの高騰で農家、農業法人が危機的状況にある。市長の認識と支援策

は。②箕輪町など近隣自治体やJA上伊那が支援を始めている。市は最低でもそれ並みの直接支援を。

答 市長 ①農業を取り巻く状況を大変危惧している。昨年度から米価下落、飼料などの支援事業を実施してきた。今回、燃料費支援の予算案を提出している。②引き続き、伊那で農業を続けていけるように支援を考えていきたい。



原一馬



伊那市の多くの人が関わる分収林について

問 原一馬議員 戦後の復興期、国は多くの森林所有者と造林契約した。植林し、満期には材木を売ってその収益を山の所有者と国などと分け合う分収造林。現在、

充分な収益が得られずに満期を迎え、契約者の多額の支払いが懸念される。現在の契約状況については。

答 農林部長 市内の現在の契約数は、林野庁、県林業公社などと計101か所である。契約者の多くは、生産森林組合、財産区、個人など。徐々に契約満期を迎えているが、十分な収益が得られないため、相手方の持分を買い取る方法が主となっている。契約者は、必要により契約満了時に向けて積立てや借入れを検討する必要がある。市は、国県の補助制度を利用した森林整備の支援を行っていく。

伊那市の森林資源活用、新宿区との協定について

問 原一馬議員 都市(まち)の木造化推進法により、長野県産カラマツの需要が高まっている。今、森林環境譲与税などを活用した森林資源循環の仕組みを生み出す取組についてはいかがか。

答 市長 友好都市の新宿区との協定により、市有林約300haの間伐が行われてきた。協定は更新していく。公共施設だけでなく、民間施設にも伊那市の材を活用していただくように働きかけていく。

小池 隆



高齢者の在宅介護に携わる家族支援について

問 小池隆議員 家族介護者の心身の介護負担の軽減についての考えは。

答 市長 ケアマネージャーと連携し、状況に応じた適切なサービスへつないでいく。また、新産業技術の面でも現場に合った研究を進めていく。

問 小池隆議員 家族介護者のための心身リフレッシュ事

業を実施したらどうか。

答 市長 参加者が少なくやめた経過があり、ニーズを聴きながら必要性を検討する。

環境にやさしい農業及び伊那産ブランド確立と学校・保育園等の給食への供給について

問 小池隆議員 市独自の米栽培基準を設定し、伊那市認証米としてブランド化し、販路拡大、農業所得増大を目指したらどうか。

答 市長 これまでも、農協と県などにより安心・安全な栽培基準が築かれてきた。今後も「川下り米」や「伊那華の米」など伊那市産米ブランドのPRに努めていく。

問 小池隆議員 伊那産の有機食材を学校、保育園等の給食に、早期に供給していく考えは。

答 市長 地域で賄える安心・安全な食材であれば提供していく。

問 小池隆議員 減農薬、有機肥料などで栽培した伊那産米を学校給食へ導入する意向は。また、導入時期は、いつ頃を考えているか。

答 市長 生産量など様子を見ながら、方向としては

100%伊那産米に切り替えていきたいと考える。

池上謙 いけがみけん



南アルプス林道バス事業について

問 池上謙議員 本年度もコロナ禍が続いていたが、南アルプス林道バスの乗客輸送実績はどうであったか。

答 長谷総合支所長 5年ぶりに自然災害等の影響を受けずに年間通常運行ができた。輸送実績は、5万735人と、コロナ禍以前の実績に近づいた。

問 池上謙議員 今年の7月から登山者の駐車場を有料化した。使用料収入はどのくらいになったか。

答 長谷総合支所長 7月中旬に徴収を始めてから1020万5000円の実績であった。

問 池上謙議員 林道バスは、昭和55年の営業開始以来42年間無事故が続いている。

危険箇所、交通事故防止対策を早急に講じ、無事故の記録を延長していただきたい。

答 市長 安全対策については、国や県等との密接な調整を行い、早急に危険箇所の改良、整備を行い、運行管理も徹底していく。

問 池上謙議員 伊那市観光(株)が経営する北沢峠こもれび山荘と仙流荘の営業終期を、南アルプス林道バスの営業終期に合わせ、11月15日までとしたらいかがか。

答 市長 山小屋の営業期間は、伊那市山荘条例で10月末までと定めている。11月は10月の15%の入込みしかない。採算上難しいが、基点となる仙流荘、こもれび山荘はセツトで考える必要があるのでは、今後検討したい。

田畑正敏 たばたまさとし



不登校・貧困・ヤングケアラー・ひきこもりへの支援について

問 田畑正敏議員 現在の伊那市の実態は。

答 市長 参考値で、子どもの貧困率は12%、ひとり親家庭の貧困率は71%となっている。

問 池上謙議員 小・中学生のアンケート調査ではヤングケアラーの可能性がある児童生徒は合わせて293人、子ども相談室で把握している人数は21世帯27人となっている。

問 田畑正敏議員 子どもの状況などを経年で正確に把握する仕組み作りとして新産業技術を活用した「見える管理の二元化」に取り組むべきでは。

問 田畑正敏議員 子どもの状況などを経年で正確に把握する仕組み作りとして新産業技術を活用した「見える管理の二元化」に取り組むべきでは。

問 田畑正敏議員 子どもの状況などを経年で正確に把握する仕組み作りとして新産業技術を活用した「見える管理の二元化」に取り組むべきでは。

問 田畑正敏議員 防災行政無線が聞き取りにくい対策として、室内用防災ラジオを全戸に導入できないか。

問 田畑正敏議員 防災行政無線が聞き取りにくい対策として、室内用防災ラジオを全戸に導入できないか。

答 市長 防災行政無線親局などの更新を、令和4年度から3か年計画で行う。それに伴い様々な情報習得手段が増えるので活用して欲しい。

お知らせ

請願・陳情

請願・陳情は、原則として定例会開会前に開催される議会運営委員会の前日正午までに提出されたものを、その定例会で審査します。
ご提出いただきました請願・陳情は、定例会本会議で委員会へ付託され、審査を行います。本会議での委員長報告後、採決します。

次回3月定例会審査の受理期限は、2月16日正午です。(期限は、変更となる場合もあります。議会事務局へご確認の上ご提出ください。)

QRコード

議員の写真下にあるQRコードを読み取ると、一般質問の動画が閲覧できます。ご利用ください。
*QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

過去の議案などについて

過去の議案、議会中継映像などについては、市議会ホームページに掲載してありますので、是非ご覧ください。

第6回 市民と議会との意見交換会開催!

伊那市議会は、市民の皆さまに開かれた議会を目指して活動しています。今年の「市民と議会との意見交換会」は市内5会場で開催し、合計83人の方にご参加いただきました。各会場共通の「コロナ禍の教訓とこれからの伊那市」というテーマと、各会場ごとのテーマを設け、皆さまの熱心な声をお聞きしましたので、その一部をご紹介します。

共通テーマ「コロナ禍の教訓とこれからの伊那市」

伊那公民館
9月28日(水)、10月5日(水)



共通テーマについて

- 地域のつながりづくりのために、生活や文化行事の再構築をしていく時期ではないか。
- コロナ禍でも実施できる防災訓練の検討が必要。
- 文化施設の開館基準の検討が必要ではないか。
- 開催することを前提に、新しい「伊那まつり」を早期に検討してほしい。
- コミュニティの再構築のために、行事の再開を工夫することで、後につなげていきたい。
- プレミアム商品券の第5弾を実施してほしい。
- 「市民と議会との意見交換会」のあり方を検討してもらいたい。

会場テーマ「国道153号バイパス開通後の地域づくりについて」

- 伊那公園、榛原河川公園の駐車場拡張をしてほしい。
- 通学路の安全対策を早急に行ってほしい。
- 排水路の点検と、段丘からの排水状況の確認を行ってほしい。
- 説明会を丁寧に開催し、要望を聞いてほしい。
- 自治会の運営維持のために、他区の好事例を共有することが良いのではないか。
- 子どもが遊べる遊具が足りない。旧伊那清掃センター跡地に遊具のある公園を設置できないか。
- 民生委員や地区役員のなり手不足解消のための手立てをとってほしい。困っていることを市につなげることが重要である。
- 高校再編は、地域力発揮と特色ある教育を実践するチャンスである。高校生に地域愛を育ててもらいたい。市にも尽力してほしい。

共通テーマについて

- 子ども達が成長過程で年齢に応じて経験しておくべき事柄について、コロナ禍で経験出来なかった。今後その子ども達をどのようにフォローしていくか。
- コロナの影響で、孤立化やインドア傾向になった子ども達への、気力体力回復と交流復活のための施策や、スポーツイベントなどの対策が必要である。
- 特定業種、特に飲食店への支援は厚いものがあつた。飲食店以外への支援の充実が必要。

伊那西小学校
10月4日(火)



会場テーマ「人口減少時代と地域の活性化について」

- 後継者のいない農地が地域活性化の妨げになっている。また農振地域が多く、人口減少につながっている。
- テレワーク、ワーケーションに適した地であること、良い環境で子育てできることをPRしてほしい。

共通テーマ「コロナ禍の教訓とこれからの伊那市」

共通テーマについて

- 新型コロナウイルス感染拡大により地域の活動が止まったままになっている。地域のコミュニケーションを取る機会の減少により地域に元気がない。
- 経済回復のため個人が行動しやすいような行政発信をしてもらいたい。
- 民泊の多くが3年間のコロナ禍で廃業せざるを得ない状況であり、支援をお願いしたい。
- コロナ対策を取っていればイベント等の開催はあっても良いのではないかな。

高遠町総合福祉センターやますそ 10月11日(火)



会場テーマ「防災対策について」

- 各地区、地域に合った避難所及び避難経路の見直しと住民への徹底をしてほしい。特に藤沢地区、長藤地区の住民の不安は強い。
- 屋外の防災行政無線が聞き取りにくい、対策をお願いしたい。
- 避難所に情報機器が整備されていないが、整備する必要があるのではないかな。
- 防災倉庫の配置が高遠地区は少ないのではないかな。
- 高遠小学校は避難所として本当に安全なのか、もう一度検討すべきではないかな。

今後の対応

- ◎今回いただいた貴重な意見は、市担当部署の対応状況を確認し、各委員会で検討を行い報告書としてまとめ、3月末までには公式ホームページ上や各会場等へ冊子配布により公開します。
- ◎早期に解決が必要な緊急課題や引き続き協議する重要課題などに分類し、市政への提言などにつなげていきます。

美篤公民館 10月17日(月)

共通テーマについて

- 行事を、やめる、やめないの過渡期になった。今後の行事を考えるにあたっては、本当に楽しい行事をやるなど、内容の簡素化も含め真剣に考えるべきではないかな。
- 役員の負担軽減のために、やらなくてもいいことは減らし、人とのふれあいは残す。

会場テーマ「防災対策について」

- ダム、堤防が決壊した時のシミュレーションを示してほしい。
- 三峰川の草木をどうにかしてほしい。
- 公民館が避難所になったときのマニュアルがないので、誰もが分かるように作ってほしい。
- 区によって避難の方法が異なるので、地区ごと検討する必要がある。
- 自主防災組織と、消防団・民生児童委員・社協との情報交換を密にしてほしい。

西春近公民館 10月17日(月)

共通テーマについて

- 会議の開催、各地区の行事等の可否判断は区長や行事の開催責任者に委ねられ、戸惑う中でリスクを避け安全最優先を考えて、中止の方向にもっていくことを選択せざるを得ない状況である。
- コロナ禍で行事を行う可否判断基準を市として明確にしてほしい。区長判断に委ねるだけでは無理がある。
- コロナと付き合いながら、再生の方向は伊那らしくしてもらいたい。

会場テーマ「地域住民とのつながりについて」

- 伊那まつり中止の影響が大きく、3年前の各種祭りのやり方が分からなくなった。そうした中で今年度実施した西春近諏訪形御柱祭は盛会であった。改めて祭りの必要性を感じた。
- 地域づくりの一環として子どもから高齢者までの防災訓練の一体化を検討したらどうか。
- コロナ禍であっても可能な限り世代間の交流機会を増やす行事等の企画をすべきではないかな。